

子孫七代に至るまで  
菊池に弓引くべからず

懐良親王

1348（正平3）年、菊池一族の第15代当主となった武光は、後醍醐天皇の皇子である征西將軍懐良親王を菊池に迎え

した。7歳で奈良の吉野を出発し、19歳の時に菊池入りした懐良親王の使命は、味方をした武士たちの領地を約束することで、九州の南朝勢をまとめるというも

問い合わせ先

菊池一族プロモーション室  
☎0968(25)7267

のでした。その懐良親王を菊池に迎えたことで、菊池一族、そして九州南朝勢の中の武光の立場は、ゆるぎのないものになりました。戦の手腕に加え、政治的な才能もあつたことは、武光の大きな強みと言えるでしょう。九州の南朝勢を納得させる大義名分を欲していた武光と、九州での武力による強力な後ろ盾が必要だった懐良親王。両者の利害は完全に一致し、目的を果たすため、互いになくしてはならない存在となりました。

## 三つ巴の争い

この頃、北朝勢の中では異変が起きていました。中央における足利尊氏と弟の直義の対立に引きずられる形で、九州の北朝勢も2つの勢力に分裂していったのです。尊氏派の九州探題、一色範氏と、直義派の足利直冬・少弐頼尚。これに懐良親王・武光の南朝勢が加わって、九州も3つの勢力が争いあう状況になりました。南朝勢にとって大変幸運なことに、この時期の争いは北朝勢同士での戦いが中心でした。互いを攻撃するために南朝勢と同盟関係を結ぶ、ということが起こっていました。

## 針摺原の戦い

1353（正平8）年、筑前の古浦城で、直義派の少弐頼尚が尊氏派の一色範氏の勢力に取り囲まれる事態となりました。頼尚は、当時同盟関係にあった武光に救援を依頼。筑後に布陣していた武光は、ただちに一族の軍勢を率いて一色軍を撃破、頼尚を救いました。この恩を受けて頼尚は「今より後、子孫七代に至るまで、決して菊池に弓を引くことはしません」と神に誓った血判状を武光に捧げました。この血判状が、後に大きな役割を果たすことになるのです。

## ◆絵画連作◆ 幻の都 城下町菊池

絵・文／橋本以蔵

## 第一章 武光公の築いた絢爛たる都



## 其の3 菊池本城・主郭

ここは菊池本城のうち、現菊池神社がある主郭です。天守閣というのは戦国末期の信長時代以降のものであり、菊池本城に天守閣があったことはありません。この時代はせいぜい区画ごとに分断できるような工夫程度の素朴な山城だったことでしょう。

## わいふ一番館

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

## 【ギャラリー】

## 「切り絵展」中山博とそのグループ

切り絵の白黒の作品とカラー作品を約40点展示します。新人2人の作品も展示しますので、ぜひご覧ください。  
期間：6月11日(火)～7月7日(日)

## 【企画展示室】

## 菊池市の巨木展

菊池の歴史を覗つづけた巨樹が生きている。菊池市には驚くほどの巨木が数多く存在します。  
期間：～7月28日(日)  
料金：大人200円、小中学生100円

## 写真や絵画などを展示しませんか

わいふ一番館ではギャラリーに作品を出展する人を募集しています。詳しくはわいふ一番館までお尋ねください。

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

## 菊池観光交流館

問い合わせ先 菊池観光協会 ☎0968(25)0513

## 写真や絵画などを展示しませんか

菊池観光交流館では、展示コーナーに作品を出展する人を募集しています。詳しくは菊池観光協会までお尋ねください。



## イベントやバーベキューもできる大屋根広場

菊池市ふるさと創生市民広場内の大屋根広場では、イベントやバーベキューを行うことができます。ぜひ活用してください。使用する際は事前に予約が必要です。



開館時間 午前9時～午後6時

休館日 なし(点検などで臨時的に休館する場合あり)